

## News Release

衛星画像で生育を見える化し、適期作業の判断から可変施肥までをトータルでサポート:

### 「アグリノート衛星リモートセンシングサービス」(お試し版)の提供開始

- ウォーターセルの営農支援アプリ「アグリノート」に、バイエル クロップサイエンスが解析・提供する衛星画像を用いた新機能が登場
- 圃場ごとの生育状況を適時把握し、最適なタイミングでの作業や収穫の計画立案が可能に
- 生育ムラに応じた可変施肥マップを作成し、井関農機およびヤンマーアグリの対象農機で精密な圃場内可変施肥を実現
- 肥料の使用量や作物の収穫量を「アグリノート」に記録することで、可変施肥の実施からその結果の振り返りまでをトータルで実現

新潟、愛媛、岡山、東京、2026年3月5日 — バイエル クロップサイエンス株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:大島 美紀、以下バイエル クロップサイエンス)と、ウォーターセル株式会社(新潟県新潟市、代表取締役社長:渡辺 拓也、以下ウォーターセル)、井関農機株式会社(愛媛県松山市、代表取締役社長:富安 司郎、以下井関農機)、ヤンマーアグリ株式会社(岡山県岡山市、代表取締役社長:所司 ケマル、以下ヤンマーアグリ)は、4社の技術と知見を活用し、衛星データを基に圃場の生育状況を可視化し、適期作業の実現から可変施肥による肥料の効率的な使用までを支援する機能を共同開発しました。本成果を活用し、ウォーターセルは「アグリノート 衛星リモートセンシングサービス」のお試し版を2026年3月5日より提供開始します。



近年、日本の農業は、担い手不足や気候変動などの課題解決へ向け、デジタル技術や衛星データを活用した精密農業の導入が急速に進展し、広範囲にわたる圃場の管理を効率化するため、現地に赴くことなく生育状況を把握できるリモートセンシング技術へのニーズが高まっています。

このような背景のもと、本サービスでは、衛星画像の解析結果から圃場ごとの生育状況を適時に可視化し、生産者は、それらの生育状況に基づいた適期作業・適期収穫の計画立案を実現します。

また、本サービスの衛星画像により圃場間および圃場内の生育ムラを可視化することで、その生育状況に応じた施肥設計(可変施肥マップの作成)を支援します。作成した可変施肥マップは、井関農機およびヤンマーアグリに対応農機で利用できるため、スムーズに実作業へ反映することが可能です。

「アグリノート」は、本サービスが加わることで、生育状況に応じた作業計画の立案から、作業結果の記録や振り返りまでを一括して管理可能となり、生産者の経営改善を強力にサポートします。

さらに、本連携による お試し版の提供を通じて、新しいサービスの普及促進とともに、ユーザーの利用状況や作業負荷を把握し、省力化、収量安定化、生育管理に貢献するサービスの検証を進め、2027年シーズンの正式展開を目指していきます。

今後も4社は、日本の農業におけるさまざまな課題解決を目指し、革新的なソリューションやビジネスモデルの開発を加速していきます。

#### 【サービス概要】

◆サービス名	アグリノート衛星リモートセンシングサービス(お試し版)
◆利用条件	利用規約に同意の上、「衛星リモートセンシングサービスお試し版」にお申し込みいただくとご利用いただけます。 「アグリノート」を無料でご利用の方、有料でご利用の方、いずれもご利用いただけます。
◆サービス提供期間	2026年3月5日～2026年12月31日 ※規定の申込数に達し次第、期間内でも受付を締め切る場合がございます
◆価格	お試し版提供期間中は無料

### 「アグリノート」について

航空写真をベースにした圃場マップを作成し、農作業および圃場の管理やスタッフ間の情報共有をサポートする営農支援アプリで、パソコンのほか、専用のアプリを利用することで、スマートフォンやタブレットからも農作業記録や作物の生育記録の入力・閲覧ができます。現在、利用組織数は2026年1月末時点で34,000組織を超え、多くの生産者の方々に利用されています。

### ウォーターセル株式会社について

ウォーターセルは生産者の役に立つ情報プラットフォームを構築し、営農情報のデータ化、共有、連携で農業界の課題を解決する企業です。生産者向け営農支援ツール「アグリノート」、自治体・企業・農業協同組合向け営農情報集約ツール「アグリノートマネージャー」、生産者と米卸や実需をつなぐ「アグリノート米市場」などのサービスを軸に、農業分野の多くの企業と連携し、農業界の課題に対するソリューションを提供しています。さらに現在は、脱炭素社会における持続可能な農業づくりへの貢献を目指し、GHG・生物多様性の可視化やカーボンクレジットの普及促進にも挑戦しています。詳細は <https://water-cell.jp/> をご参照ください。

### 井関農機株式会社について

当社は、創業者の「農家を過酷な労働から解放したい」という熱い想いから始まり、その想いを連綿と受け継ぎ、農業の生産性向上や住みよい村や街の実現への一翼を担ってきました。昨年100周年を迎え、皆さまの「Your essential partner.」として、これまでの100年、この先の100年も「かけがえのない」存在であり続けるため、お客さまに寄り添う事業活動を通じて、豊かな「食と農と大地」の創造に貢献していきます。詳しくは、井関農機のウェブサイト <https://www.iseki.co.jp/> をご覧ください。

### ヤンマーについて

1912年に大阪で創業したヤンマーは、1933年に世界で初めてディーゼルエンジンの小型実用化に成功した産業機械メーカーです。「大地」「海」「都市」のフィールドで、エンジンなどのパワートレインを軸に、アグリ、建機、マリナー、エネルギーシステムなどの事業をグローバルに展開。環境負荷フリー・GHGフリーの企業を目指し、顧客価値を創造するソリューションを提供しています。

未来を育むヤンマーの価値観「HANASAKA」を基盤に、「A SUSTAINABLE FUTURE –テクノロジーで新しい豊かさへ。–」をブランドステートメントとして掲げ、持続可能な社会を実現します。

詳しくは、ヤンマーのウェブサイト <https://www.yanmar.com/jp/about/> をご覧ください。

### バイエルについて

バイエルは、ヘルスケアと食糧関連のライフサイエンス領域を中核事業とするグローバル企業です。私たちのミッション「Health for all, Hunger for none (すべての人に健康を、飢餓をゼロに)」のもと、バイエルの製品とサービスを通じて、世界人口の増加と高齢化によって生じる重要課題克服への取り組みをサポートすることで、人々の生活と地球の繁栄に貢献しています。バイエルは、持続可能な発展を推進し、事業を通じて良い影響を創出することに尽力しています。同時に、収益力を高め、イノベーションと成長を通して企業価値を創造することも目指しています。バイエルブランドは、世界各国で信用と信頼性および品質の証となっています。2024年のグループ全体の売上高は466億ユーロ、従業員数は約93,000名、研究開発費は62億ユーロです。詳細は [www.bayer.com](http://www.bayer.com) をご参照ください。

### バイエル クロップサイエンス株式会社について

農業、種子の分野で世界をリードするドイツ・バイエル社 クロップサイエンス部門に属し、日本における農業関連事業を展開しています。環境とヒトにより調和した農業とその使用法の開発に加え、ドローンをはじめとするロボティクスや、個々の生産者のニーズに応えるテーラーメイド農業を実現するデジタルソリューションの開発・提供を軸に、日本の農業の持続可能な発展に貢献しています。詳細は [www.cropscience.bayer.jp](http://www.cropscience.bayer.jp), [Facebook](#), [YouTube](#) をご参照ください。

ウォーターセル株式会社、井関農機株式会社、  
ヤンマーアグリ株式会社、バイエル クロップサイエンス株式会社  
2026年3月5日、新潟、愛媛、岡山、東京

この件に関するお問い合わせ先:

ウォーターセル株式会社 広報担当 Tel: 025-282-7368 MAIL: [release@agri-note.jp](mailto:release@agri-note.jp)

井関農機株式会社 広報担当 Tel: 03-5604-7709 MAIL: [isk-info@iseki.co.jp](mailto:isk-info@iseki.co.jp)

ヤンマーアグリジャパン株式会社 スマートアシストリモートサポートデスク

MAIL: [smart\\_assist@yanmar.com](mailto:smart_assist@yanmar.com)

バイエル クロップサイエンス部門 広報 川添 Tel: 03-6266-7470

**将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)**

このニュースリリースには、バイエルの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれている場合があります。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 ([www.bayer.com](http://www.bayer.com)) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。